

■ 副理事長ご挨拶

総務委員会 担当理事 帖佐 悦男

宮崎大学



はじめに平成 29 年に第 43 回日本整形外科スポーツ医学会を宮崎大学で担当させて頂き、無事終了することができました。あらためまして学会にご参加頂いた皆様へ深謝申し上げます。

さて、このたび日本整形外科スポーツ医

学会の副理事長という大任を再度拝命し、大変光栄に存じますとともに責任の重さを痛感致しております。

以前、私が理事を務めさせていただきました際、本学会が一般社団法人として新しい出発をきりました。その重要な節目に関わったことは私自身にとっても大きな経験です。また当時は財務担当の副理事長として、本学会ならびにスポーツ医学の発展に貢献すること、理事長の負担を軽減すること、高岸理事長、麻生副理事長が実施されてきました財務の健全化などを中心に会の運営に努めてまいりました。今回は総務担当として、松本理事長、西良前副理事長、筒井前副理事長が勧められました事業の推進とスポーツ専門の医学会としての役割をより鮮明にする必要があると実感しております。

さらに、学会の活性化やスポーツドクターを含めた subspeciality への対応も重要な課題と思っております。

そのために、AOSSM、KOSSM、GOTS を含めたスポーツ医学会や医師以外のメディカルスタッフとの連携の推進が必要不可欠です。スポーツ医学の発展に整形外科医やその代表的学会であります本学会が果たす役割は重要であり、メディカルスタッフ、他職種、指導者などと、より一層連携することがスポーツ医学の発展につながると考えております。また、トップアスリートだけではなくスポーツ愛好家や市民、障がい者スポーツに関わる方に対し運動器を中心に関与し、トータルに評価・指導できるスポーツ医の育成にも学会全体で取り組み、スポーツドクターのみならずメディカルスタッフの育成や市民への啓発活動を行っていききたいと思います。

スポーツ医学に関し外傷・障害が発生した場合、早期診断・早期治療が重要なことは至極当然ですが、予防医学により一層重点をおく時期がきていると思います。学童期から運動・スポーツや学校検診を通して、日整会の進めるロコモティブシンドロームの啓発や予防に貢献したいと考えています。また、障害予防を進めることで、外傷や障害のために運動やスポーツ活動を断念せざるをえなくなる選手やスポーツ愛好家を減らせればとも思っております。

浅学非才の身ではございますが、本学会の伝統を継承し、ますます発展できますよう誠心誠意努力する所存です。どうかご指導ご鞭撻の程、よろしくごお願い申し上げます。

財務委員会 担当理事 田中 康仁

奈良県立医科大学



この度伝統ある日本整形外科スポーツ医学会の副理事長（財務担当）に就任させていただき、大変光栄に存じております。財務委員会の委員には大谷俊郎先生と橋本健史先生にお願いいたしております。多くの先生方

のご努力で会員数が増え、財政的に改善傾向にありますが、収入をさらに増やし、無駄な出費を抑えることで、より安定したものになりたいと考えております。一般社団法人になったことで、次年度からは学術集会の会計が、学会本体の会計に入ることになります。年度予算を立てる場合には、学術集会の予算も決めていただく必要がありますので、会長の先生におかれましては、早めのご対

応をお願いできれば幸甚に存じます。

私は1995年に第5回のGOTSトラベリングフェローに選出させていただき、ドイツ、スイス、オーストリアを1ヶ月かけて研修をさせていただきました。各国のスポーツ診療を研修させていただいただけでなく、各種スポーツも実際に体験し、整形外科医としての夢を語り合う一生の友を日本のみならず海外にも得ることも出来ました。これを契機として視野を世界に広げる重要さに気づくことができ、整形外科医として心のよりどころになるような貴重な経験をさせていただきました。本会は私の整形外科医としての原点の一つであり、思い入れも大変強いものがあります。我が国では2019年のラグビーワールドカップや2020年の東京オリンピックなどビッグイベントがこれから目白押しで、スポーツに対して国民の期待も高まっております。本会にとりましては更なる飛躍を遂げる大きなチャンスであります。その達成に向けて私も誠心誠意努力する所存でございます。皆様の暖かいご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

■ 理事ご挨拶

編集委員会 担当理事 岩崎 倫政

北海道大学



このたび伝統ある日本整形外科スポーツ医学会の理事に就任させていただきました。たいへん光栄に存じますとともに、その重責を痛感しております。微力ではございますが、本学会の発展のため尽力させていただき所存であり

ます。学会員の皆様、何卒よろしくお願いたします。

近年、スポーツ医学は社会的にも大きな注目を集めております。これを背景として、今後も本学会が担う役割は一層重要なものとなり、社会的影響力も増していくこと

は確実です。そのために、若い世代を中心に会員を増やし、本学会をさらに発展させていく必要があります。

今回、編集委員会を担当させていただくことになりました。学会のプレゼンスを高めるために最も重要なことのひとつが、学術活動の活発化であると思います。その活発化の中核を担うのが、日本整形外科スポーツ医学会誌の充実であることは間違いありません。幸いに、本委員会の前担当理事 柴田陽三先生をはじめとした編集委員会の先生方の多大なご尽力により、本学会誌は質の高いものになっています。今後、若い世代を中心とした学会員の先生方に投稿を促し、質と量ともにさらに充実した学会誌を発刊してきたく存じます。学会員の皆様には、ご支援、ご協力を賜りますよう何卒よろしくお願いたします。

学術検討委員会 担当理事 山下 敏彦

札幌医科大学



この度、日本整形外科スポーツ医学会の理事を拝命した札幌医科大学の山下です。2008年～2013年に次いで、2度目の理事就任となります。2016年には、第42回本学会学術集会を札幌市にて開催させていただきました。

学術集会の開催を通して、本学会がますます活性化し、レベルアップしていること、そして2020年の東京オリンピッ

ク・パラリンピックに向けて、本学会の果たす役割とそこから生み出されるものに対する学会内外からの期待が大いに高まっていることを実感しました。

今回は、学術検討委員会を担当させていただくことになりました。本学会の研究助成ならびに日本スポーツ治療医学研究会（JPSMF）の研究助成の審査、優秀論文賞の選考、日本整形外科学会学術総会のシンポ・パネル案の提案などが主な業務となります。学術・研究活動は、学会にとって根幹をなす最も重要な任務であるとともに、学会のステイタスを示すものであると考えます。理事会、委員会の活動を通して本学会のさらなる発展のために力を注ぐ覚悟ですので、皆様のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

広報委員会 担当理事 金岡 恒治

早稲田大学スポーツ科学学術院



この度、伝統ある日本整形外科スポーツ医学会の理事に就任させて頂き、大変光栄に感じております。

すでに大きな社会問題となっている少子高齢化に伴う医療費の高騰、高齢者の自立支援に対する大きな

解決力を持っているのはスポーツ医学です。整形外科学は運動器の障害の最終段階である器質的障害に

対する治療方法の開発、進歩、普及において重要な役割を果たし、多くの国民に恩恵を与えてきました。しかし超高齢化社会の現在、整形外科的治療のみでは健康寿命をこれ以上延伸することは難しくなっているのが現状ではないでしょうか?スポーツ選手の障害に対して運動器機能を改善することによって、日常生活に戻すだけでなく競技現場に戻すという、我々の培ってきたスポーツ医学的アプローチが今後ますます一般国民に対しても求められてくるものと思います。

私は広報担当の理事として、我々の得てきた知見を多くの整形外科医、運動器医療担当者、患者さまに伝えられるよう、松本理事長を支えながら、尽力して参りたいと存じます。何卒よろしくご指導ご鞭撻をお願い致します。

国際委員会 担当理事 黒田 良祐

神戸大学



このたび、伝統ある日本整形外科スポーツ医学会の理事に就任させて頂き、同時に国際委員会を担当させて頂き、大変光栄に感じております。私は臨床においてアスリートの膝損傷に対する治療を専門とし、研究では膝関節バイオメカニクス、

靭帯再生や再建靭帯のリモデリングなどを行っております。さらに関西に本拠地をおくプロや学生スポーツチームのチームドクターを務め、地域のスポーツ振興に貢献

するとともに、学術的には本学会に長年にわたり深く関わらせていただいております。本学会の国際委員会では昨年まで委員長を2年間務めさせて頂き、松本秀男理事長はじめアドバイザーの別府先生、担当理事の菅谷先生のご協力をいただきながら GOTS traveling fellow の受け入れや AOSSM への traveling fellow 派遣選考、派遣先との交渉などを行ってまいりました。担当理事として AOSSM や GOTS との相互関係を更に強化し、KOSSM とこれまで以上に密な交流を目指し、また AOSSM、GOTS の official journal へ本学会の優秀論文を投稿出来る仕組みなども作っていきたくと考えております。微力ながら本学会の発展に尽力致す所存でございます。学会員の皆様にはご指導ご支援を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

教育研修委員会 担当理事 加藤 公

鈴鹿回生病院



この度、松本理事長による体制のもと、引き続き教育研修委員会担当理事をさせて頂くことになりました鈴鹿回生病院の加藤公と申します。

スポーツ医学が医学会のみならず、社会的にも注目されてきている昨今、日本整

形外科スポーツ医学会はより一層重要な役割を担うことになっていくものと考えております。

教育研修委員会の役割は、医師をはじめトレーナー、理学療法士、スポーツ医科学者やそれらを目指す学生への教育・研修をいかに進めていくかということになります。具体的には、これまで行ってきた「大学生・高校

生のためのスポーツ医学セミナーの開催」を継続して行っていくことですが、もう一つの柱として、スポーツ医学教育システムの構築という事業を担っていく必要が生じて参りました。「スポーツドクターになりたい」、「スポーツ医学を勉強したい」という多くの若い整形外科医たちに、学会としてスポーツ医学に関する様々な研修の場を提供できるシステムをなんとか構築したいという松本理事長の熱い思いもあって、一昨年から当委員会で少しずつその実現に向かって進めているところでございます。研修を受ける側にも提供する側にも喜んでいただけるシステムが完成するよう、委員の皆さんとともに引き続き勤めていかなければと考えております。

微力ではございますが、今後とも教育研修委員会担当理事として、本学会の運営に関わることで本学会の発展のために努力したい所存でございます。会員の皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

社会保険委員会 担当理事 尾崎 敏文

岡山大学



このたび伝統ある日本整形外科スポーツ医学会の理事に就任させていただくことになりました。本学会会員の皆様にこの紙面をお借りしまして、ご挨拶を申し上げます。大変名誉なことでございますとともにその重責を痛感しております。

委員会では社会保険委員会を担当しておりますのでよろしくお願い致します。

東京オリンピック・パラリンピック、ラグビーワールドカップとスポーツのビッグイベントの日本開催が近づいてきています。2015年にはスポーツ庁も新設され、国をあげて選手の医科学的サポート体制を充実させる機運も高まっ

ています。選手のスポーツ傷害を防ぐため、さらにトラブルが起きた場合には適切に治療を行いスポーツ活動に復帰させるために、また競技能力の向上など、スポーツ選手を支える医療従事者の役割が非常に大切です。現在、私の教室でもJリーグチームや実業団陸上部などのチームドクターとして、多数の医師が現場でスポーツ活動をサポートしています。また、国体選抜チームなどの帯同、中高校生のクラブ活動におけるメディカルチェックやスポーツ相談、一般市民、およびスポーツ指導者を対象とした講演活動などを行っています。このようなスポーツ活動の支援を続けながら、スポーツ傷害の予防と治療に関する研究を行い選手の競技能力向上に貢献するとともに学会の発展にも寄与したく存じます。

微力ではございますが、松本秀男理事長はじめ副理事長、理事の先生方のご指導を賜りながら、本学会の運営にかかわって参りたい所存です。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

メンバーシップ委員会 担当理事 橋口 宏

日本医科大学千葉北総病院



この度、伝統ある日本整形外科スポーツ医学会の理事の末席を務めさせて頂くことになりました。御支援を頂戴致しました先生方の負託にお応えできますよう、可能な限り努力を傾注するよう心掛けて参りたいと存じます。

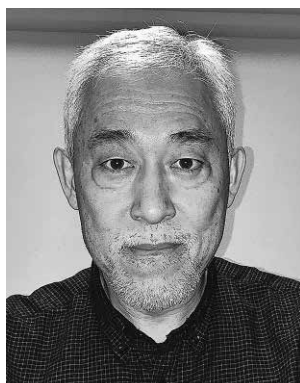
御存知の通り、スポーツ選手に対して診断から治療を行っていく上で、またコンディショニング向上やメディカルチェック・障害予防を推進させていくためにも、医師のみ

ならず、その一端を担うトレーナーや理学療法士などから成るチーム医療はとて重要となります。治療に当たっているトレーナーや理学療法士の観点から受ける助言は、選手だけでなく、われわれ医師にとっても貴重なアドバイスになることがしばしばあります。トレーナーや理学療法士のスポーツ医学に対する貢献度は非常に高く、本学会発展のためにも、その存在は不可欠なものであり、多くの方が本学会に参加されることが望まれます。メンバーシップ委員会担当として、適切な資格審査を行いながらも、スポーツ医学を志し学ぶ意欲のある方々に門戸を開き、学会員増加のために微力ではありますが尽力していく所存です。

今後とも諸先生方からの御指導・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

ガイドライン策定委員会 担当理事 熊井 司

早稲田大学スポーツ科学学術院



このたび、日本整形外科スポーツ医学会の二期目となる理事を拝命し、またガイドライン策定委員会を担当することになり大変光榮に存じております。さらに、引き続き国際委員会委員としての任務も再任させて頂きたくことになり責任の重大さを感じております。本学会会員の皆様にご場をお借りしましてご挨拶申し上げたいと思います。

ガイドライン策定委員会では、数年前より帖佐悦男委員長のもと日本整形外科学会と連携して「アキレス腱断

裂診療ガイドライン」の改訂作業が進行中であります。現在、公開されているものは2007年に作成されたものでありますが、それから10年以上の年月の間に新たな多くのエビデンスが報告されてきました。アキレス腱断裂については日常診療での需要も多く、整形外科診療全般における重要性は高いものと感じています。他の診療ガイドラインについても、順次、改訂第2版が公開されつつある状況の中、この改訂ガイドラインが正確な最新のエビデンスによる診療指針として活用されるべく、委員の先生方とともに仕上げたいと考えています。浅学非才の身ではございますが、松本理事長はじめ各理事の先生方のご指導を賜りながら、本学会の伝統を継承し更なる発展に貢献できるよう努力する所存でございます。どうかご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

定款等検討委員会 担当理事 **出家 正隆**

愛知医科大学



この度、伝統ある日本整形外科スポーツ医学会の理事という大任を拝命しその責任の重さを痛感するとともに、本会は日本のスポーツ医学をリードする学会でそのような会の要職を拝命し光栄に存じます。委員会では定款等検討委

員会を担当しておりますのでよろしくお願い致します。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催まで3年を切り、今まで以上にスポーツへの関心、スポーツ

医学への関心が集まり、注目度も高まって来ています。整形外科医は運動器治療においてスポーツ医学の中心的役割を担ってきました。その中でも本学会の役割は、運動器スポーツ医学に関する既存および新しい検査、診断、治療などを検討する場を提供することであり、優れた研究成果を国内外へ向けて発信することだと思います。今後も中心的役割を果たすためには、充実した学術集会の開催と本学会の継続的な発展が不可欠と考えます。その実行に、本学会が魅力にあふれかつ有益な情報を提供できる学会になるように、そして更なる発展に繋がるよう微力ですが尽くしていく所存です。

何卒、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

倫理・利益相反委員会 担当理事 **安達 伸生**

広島大学



このたび松本秀男理事長のもと、伝統ある日本整形外科スポーツ医学会（JOSSM）の理事に就任させていただくことになりました。大変な名誉であるとともに、その責任の重さを痛感しております。大変若輩者ですが諸先生

方のご指導を受けながら努めさせていただきますので、よろしくお願い致します。

現在、スポーツ関連の学会としては、JOSSMのほかには日本臨床スポーツ医学会、日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会、日本体力医学会、などがあります。同じ

「スポーツ」を対象としている以上、学会活動の内容にある程度の重複があることは仕方ありませんが、学会同士の立ち位置が依然やや不明瞭でもあります。それぞれの学会がお互いにwin-winの関係で相互に協力し、発展していくことが重要であると思います。JOSSMはその名の通り、スポーツ医学と整形外科の両者の要素を兼ね備えた学会であり、スポーツ医学における整形外科医の役割とともにJOSSMの重要性は論を俟ちません。他学会とも連携をとりつつJOSSMの発展のため学会活動、委員会活動を通じて努力する所存ですので、会員の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

理事としては奥脇透先生の後任として「倫理・利益相反委員会」を担当させていただきます。本委員会活動としては、まずは日本整形外科学会のCOIが改訂されることに基づき、本会のCOI規定の改定作業に取り組む予定です。

津田 英一

弘前大学



この度、伝統ある日本整形外科スポーツ医学会の理事に就任させて頂くことになりました。誠に身に余る光栄であり、その責務の重大さにあらためまして身の引き締まる思いです。

これまで私は、加藤公理事のもと教育研修委員会にて、高校生・大学生へのスポーツ医学の紹介、研修医・若手医師に対するスポーツ医学教育のシステム作りなどの事業に携わって参りました。スポーツによる障害・外傷の大部分は運動器に発生するため、その治療の主役を担う整形外科医には専門的立場から診療を進める知識・技能が必要です。更に最近では予

防やコンディショニングまで含めた、スポーツ選手のトータルケア・マネジメントが求められており、診療現場ではより幅広い知識が要求されるようになりました。「整形外科学及び運動器科学領域におけるスポーツ医学の進歩普及」を理念として掲げる本学会では、学術集会を通じたエビデンスの確立・医学情報の発信、国内・海外学会との相互交流、前述のスポーツ医学教育のシステム構築を今一層進めていく必要があります。2020年に開かれる第46回学術集会は、石橋恭之会長（弘前大）のもと日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（JOSKAS）と合同で開催されます。是非とも合同開催を成功させスポーツ医学の発展により一層寄与できるよう、担当理事として全力でサポートして参りたいと思います。

はなはだ微力ではございますが、理事の職務に専心し本学会の更なる発展に貢献できるよう努力して参ります。会員の皆様には引き続きご指導、ご鞭撻いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

舟崎 裕記

東京慈恵会医科大学



この度、伝統ある日本整形外科スポーツ医学会の理事に選任され、身に余る光栄とともにその重責を痛感しております。

2020年の東京オリンピック、パラリンピックに向けて日本のスポーツには益々関心が高まっています。トップアスリートばかりでなく、学童期、学生、さらに障害者などあらゆるカテゴリー、年代でスポーツは浸透し、まさにスポーツ文化を形成するに至っており、スポーツ整形外科医が担う役割は今後も増加していくことが予想されます。一方では、高齢者の変性疾患を基盤とするロコモティブシンドロームや子供の運動不足から生じるいわゆる子供ロコモ

も問題となっており、スポーツや運動療法の対応が求められています。このような多岐にわたる対象やスポーツ関連疾患に対して、それぞれの要求に応じた予防、治療を行っていくうえで、本学会の果たすべき役割は多大であると考えます。私は現在もプロサッカーのチームドクターとしてピッチを走り続けておりますが、医療側と現場側の認識の相違をしばしば経験します。選手にとって病院での治療は一つの過程であり、完全復帰のためにはコメディカルスタッフや指導者などとの連携のもと包括的なプログラムを作成しなければなりません。今後、日本整形外科学会とも連携を強化し、本学会がスポーツ関連傷害に対してイニシアチブをとって現場との連携を含めた体系的な治療体系を構築し、さらに、それに必要なスポーツ整形外科医を育成していくことが重要と考えております。甚だ微力ではございますが、本学会の発展のため鋭意努力する所存です。何卒よろしくお願い申し上げます。

■ 監事ご挨拶

宗田 大

(独) 国立病院機構災害医療センター



この度平成 29 年度の役員改定にあたり、監事を務めることになりました宗田です。どうぞよろしくお願い申し上げます。私、32 年間に在籍した東京医科歯科大学では一貫して膝スポーツを専門として担当し、外科的にまた保存的治療を駆使して、多くのスポーツ選手の現場復帰を手助けしてきました。

整形外科は近年専門化、細分化がどんどん進んでい

ます。専門化は診療の質を高めるためには大切ですが、多様な患者のニーズに応える方向性とはやや異なることがあります。整形外科の専門化が進む中、「スポーツ」は整形外科診療の横糸ともいえる共通の課題、高い目標となります。すべての整形外科医はスポーツ選手のニーズに応えることを臨床の目標としたいものです。伝統ある本日本整形外科学会が、より幅広く高いスポーツ医学を実践していくことは非常に意義深いと感じます。

松本理事長は整形外科スポーツ医学の教育や国際交流に高い理念を持ち、これを発展させる強い意思を持っています。これまで非常にしっかりした学会運営を担当してこられた先輩諸先生に習い、微力ながら理事長を支えさらに本会を盛り立てていきたいと存じます。

吉矢 晋一

兵庫医科大学



昨年の本学会の際に承認いただき、監事を務めさせていただいています。私自身の学会への入会は 1980 年代ですので、30 年以上の会員歴になります。若いころに、未だ参加者数や規模の小さかった頃の本学会学術集會に参加し発表した当時のことが懐かしく思い出されます。学会の監事というのはキャリアを十分積まれた、上の先

生の役職、というイメージがあったのですが、自分自身も役不足ながら、そのような年代になったものかと思っています。

自分達の年代は、あと数年以内に学会役員の立場からは引退していきますので、その後、学会を率いていかれる次の世代の先生方が、心おきなく力を発揮して学会を発展させていっていただける環境や場を準備することが私の役割と思っています。次の世代を担っていく若い年代の先生方から、お気づきの点や要望など聞かせていただいてそれを取り入れ、学会がさらに発展していくためのお力になりたいと思っています。よろしくお願いいたします。